

弘大と青い森信金 地域振興へ連携協定

弘前大学（佐藤敬学長）と青い森信用金庫（益子政士理事長）は17日、地域経済の活性化や産業の振興に貢献するため「連携協力協定」を結んだ。両者が持つ情報や人的資源を活用し、弘大は地域連携の取り組みをさらに進め、青い森信金は顧客の中小企業が抱える問題解決や新分野進出への

支援などを行う。弘大が金融機関と同様の協定を結んだのは5件目、



青い森信金が大学と協定を結んだのは八戸工業大、八戸学院大に続いて3件目。協定書では

協定書を手にする青い森信金の益子理事長と弘前大の佐藤学長

- ①地域経済の活性化
- ②地域中小企業の研究開発
- ③地域振興に役立つ人材の育成・生涯学習
- ④学術研究に関して相互に連携協力

するとした。

協定締結式は、八戸市の八戸グランドホテルで行った。佐藤学長は「地域連携の取り組みをさらに加速するものになる」と期待感を示した。益子理事長は「私たちは地域と運命共同体という思いを持っている。お客さまの6次産業化の支援やビジネスにさらに付加価値を付けられるよう、大学への橋渡し役を務めたい」と述べた。（樋渡慎弥）

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。